

創発の前提条件①

別紙

地域外の人的ネットワーク・クラウドの形成、維持

飯田との関係性・
結びつきの構築

大学教授・
研究者
【学輪IIDA】

産業人
【企業懇話会】

官庁関係者
【国等審議会、委員会他】

有識者
【各種専門
研究機関】

ふるさと会・
同窓会

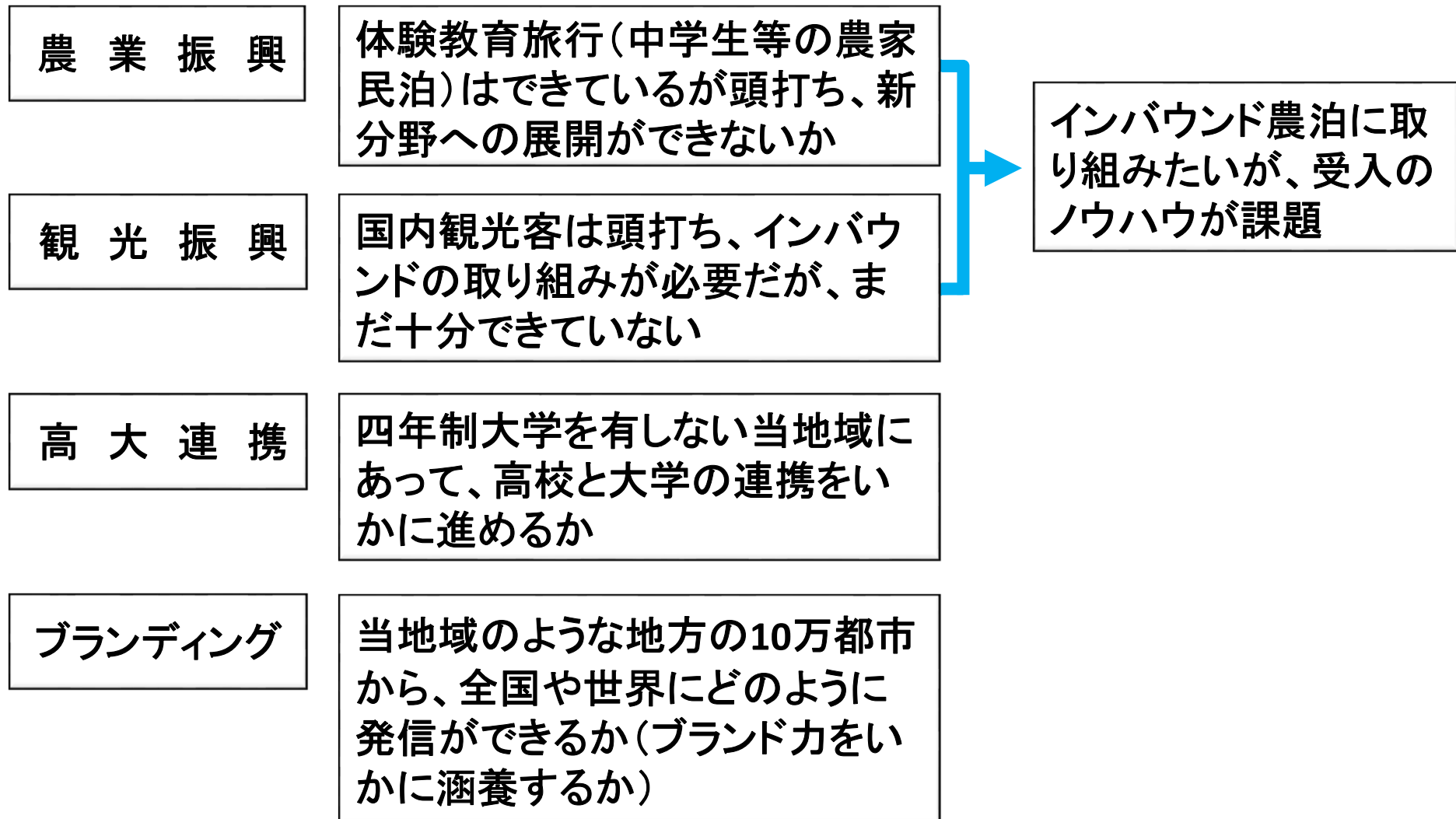
・飯田への様々な提言
やプロジェクトの提案を
いつでも出してもらえる
状態を保つ

・そうしたプロジェクトに
対してできるサポートを
いつでも提供してもらえ
る状態を保つ

創発の前提条件②

課題の把握: すぐに解決できなくても常に意識している状態を保つ

【事例: インバウンド農泊の事業化(現在進行中)】



共創によるイノベーションの創発プロセス②

飯田に縁のあるLBS関係者からの提案(昨年11月)



(提案)

「ロンドン・ビジネス・スクール(LBS)の学生に農泊を体験させたい」との提案 約80か国、128人

**農泊関係者に
受入を提案**

受け入れるためのノウハウを取得しよう
(農家の皆様のご理解を得る)

**農泊関係者に
受入を提案**

**地元高校生の
参加**

外国人と交流し、国際感覚を
涵養しよう
(地元高校の協力を得る)



(実行までの工夫)

**農泊関係者に
受入を提案**

**地元高校生の
参加**

**京都外国語
大学生の支援**

農家とLBSの学生との橋
渡しを担ってもらい、飯田と
の関係性を強める
(学輪IIDAの機能発揮)

共創の場



【イノベーション創発のKey Point ～飯田のバスケット方式～】

提案されたプロジェクトをバスケットに見立て
従来から意識している課題の解決につながるかどうか
ボールを入れるような感覚でシミュレートして議論を重ねる

提案されたプロジェクト＋課題への対応

付加価値創造につながることを確認し、行政として予算計上
(3月補正予算200万円)

↑
ワイズ・スペンディング

↓
3月29・30日実施予定

共創によるイノベーションの創発プロセス③



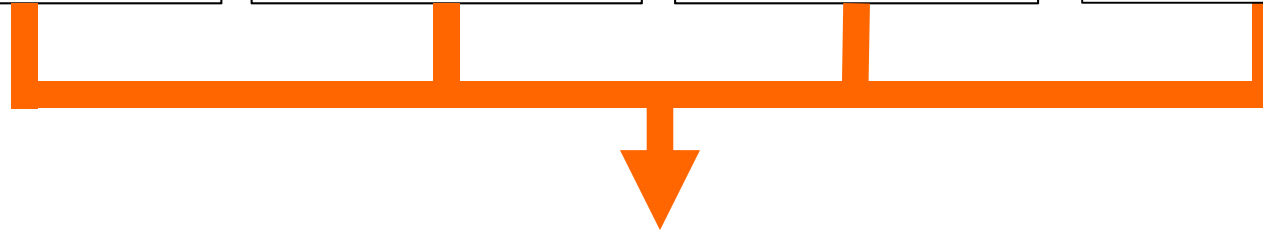
(点検・
評価)

①農家
外国人受け入れの
ノウハウを得られる
契機になったか

②高校生
LBSの学生や大学生
との交流によって、視
野を広められたか

③大学生
橋渡し役を通じて
飯田との関係を深
められたか

④飯田ブランド
多くの国に飯田の
発信がなされたか



本プロジェクトを契機に次のような展開が期待される

【インバウンド農泊の本格的な事業化】

・大学生の橋渡しが無くても運営できるようにしていく

【大学生と高校生の交流プログラムの推進】

【海外への飯田ブランド発信力の強化】



(改善)